

平成29年度第3回社会教育委員の会議

平成29年7月21日(金)
午前9時30分開会

開催日時	平成29年7月21日	開会 9時30分 閉会 11時00分	
場 所	小金井市役所第二庁舎 801会議室		
出席委員	議 長 原嶋 和男 副 議 長 柴田彩千子 委 員 大久保美千子 委 員 石田 静子 委 員 城 瑞枝	委 員 長坂 寛 委 員 小山田佳代 委 員 佐野 郁蔵 委 員 原田 隆司	
説明のため出席した者の職氏名	生涯学習部長 西田 剛 生涯学習課長 内田 雄介 図書館長 菊池 幸子 公民館長 林 利俊		
事務局	生涯学習係長 小堀久美子 生涯学習係主事 小佐野七香		
傍聴者人数	0名		

日程	議 題	
第1	協 議 事 項	<ul style="list-style-type: none"> (1) 会議録の承認について (2) 生涯学習支援センター機能について (3) 第3次小金井市生涯学習推進計画の進捗状況調査について (4) その他 <ul style="list-style-type: none"> ①青少年のための科学の祭典について ②その他
第2	報 告 事 項	<ul style="list-style-type: none"> (1) 平成29年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第1回理事会について (2) 一般社団法人社会教育委員連合からのお知らせ (3) その他

原嶋議長 皆さん、おはようございます。お忙しい中ご苦勞さまです。
それでは、レジュメに従って話を進めていきたいと思っています。 最初に大久保委員さんが、皆さんがそろったところでは初めてなのかなと思いますので、改めて自己紹介を簡単にさせていただきますか。

大久保委員 P連から出向しております、大久保と申します。前任の北村さんを継ぐ形で、臨時で入らせていただいています。前回の視察にも参加させていただいて、とても勉強になりました。次の期が始まるまでの短い期間なんですけれども、その中で、できる限り皆様のお話を聞きながら、何か貢献できることがあればと思っております。どうぞよろしく申し上げます。

原嶋議長 部長さん、最初に何かありますか。

西田生涯学習部長 皆さん、おはようございます。今日はお集まりいただきましてありがとうございます。

生涯学習に関しましては、皆さんご承知のとおり、今、過渡期にあるのかなと私どもは思っております。そういった中で、今回話題にもなりますけれども、第3次小金井市生涯学習推進計画というのを策定いたしまして、その進捗状況をチェックするわけですが、今回から重点目標のところについてのチェックというような形で評価をしていこうということでまとめたのかなと思っております。そういう意味でも、やはりメリハリをつけて、生涯学習、どういう方向に小金井市として進んでいくべきなのか、この計画をもとに、市民のためにどういうことが、行政、または市民協働でできていくのかということにつきまして、皆さんの議論をどんどん深めていっていただければと思います。

本日も盛りだくさんな議題かなと思っておりますけれども、議長、どうぞよろしく願いいたします。

原嶋議長 ありがとうございます。内田課長さん、何かありますか。

内田生涯学習課長 私もこの4月で配属になりまして、狭山市なんかにもご一緒させていただきまして、ほんとうに進んでいるなというふうに実感として受けて帰ってきております。在籍している間、どこまで進められるだろうかなんていうのを、たまに自問自答しているんですけども、皆さんと足並みをそろえてやっていきたいなと改めて思いました。

以上です。

原嶋議長 ありがとうございます。
それでは、議題に入ります。会議録の承認についてはよろしいですか。

小堀生涯学習係長 平成29年度第1回、第2回の会議録を、第1回については皆さんに見ていただきました。第2回につきましては、発言された方に見ていただ

いて、校正したものを今回配布しております。こちらのほうをご確認いただいて、ご承認いただけるかどうか、よろしく願いいたします。

原嶋議長

4月21日と、視察の際の会議ですかね。まず、4月21日の第1回のもので何かありますでしょうか。なければ、ご承認いただけますか。

(「はい」の声あり)

原嶋議長

ありがとうございます。

では、例の狭山のほうのもの、第2回になりますけれども、これもよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

原嶋議長

ご承認ありがとうございます。

続きまして、今日はこれがメインなのかもしれませんが、議事というよりは感想を一ついただけないかなということで、まず、第2回目に参加した人のみに当てるわけではありませんけれども、狭山の交流センターに行った中で、どのようなご感想をお持ちして、小金井市としてこうあってほしいという願望もあれば、そこでお話しされてもよろしいかと思えます。

原田委員、まずお願いします。

原田委員

大変充実しているのでびっくりしまして、長い歴史があつてあそこまでたどり着いたのかなという感じがいたしました。

それで、幾つか参考になるポイントがあるなと思ったんですが、一つは、皆さん同様にお感じになったと思うんですけども、NPO法人が中心になってやっつけていっているということで、あそこの力とか、人材力というのがベースにあつて成り立っているシステムなのかなと。もちろん、市の方とそのNPOの方とよく連携がとれていて、中身の充実につながっているということとは言えると思います。

それから、もう一つは「まなびいネット」、要するにインターネットでの情報が非常に充実していると。検索も容易にできるし、動画でいろいろな活動が見られるということに大変感心したんですが、これもいろいろ伺ってみると、もともと紙媒体できちんとつくってあるものがあつて、それをベースに検索機能というふうに進展していったということで、やはり、いきなりインターネットでやりましょうということではなくて、きちんとした紙媒体での情報の整理があつたということがよくわかりました。

あと、動画については、あれは普通に考えたら、機材とか編集とか、随分お金もかかるんじゃないかなと思うんですが、これは伺ったところ、全部ボランティアといいますか、無償でやっつけていっているということで、これももともとそういうビデオサークルが市にあつて、その蓄積が役に立っているんじゃないかなということで、大変先進的な事例なんですけれ

ども、どれもすぐにはまねしてできるというものではないんですが、方向性としては大変参考になった視察だと思います。

以上です。

原嶋議長

うまくまとめていただいて、ありがとうございます。
城さん、ご感想ありますか。

城委員

「さやマルシェ」とか、「さやまなびいネット」とか、パソコンで開いたときに、すぐ見やすく、次から次に行くので、どういう方たちがなさっているのかなというのを勉強させていただいて、こういう形でNPO法人の方たちが中心でやっていらっしゃるからこそ、こういうのができるのかなというのをすごく感じました。そこに、先ほどおっしゃいましたけれども、ビデオの動画にする専門家もいらっしゃって、そういうことがない限りは、なかなか、パソコンとか、そういうところにぱっと移れるようなシステムをつくるのは、素人では難しいのかなと思いました。

それから、NPO法人の方たちが毎日来ていらして、すごく熱心で、そういう窓口もあり、そういう席もありというのが、すごいな、やっぱり全部で取り組もう、そこだけではなくて、市役所、それからNPO法人の方たちの取り組みの方法があって初めて成り立つものだなと、すごく感心しました。

これをすぐ小金井市に持ってくるのは無理だなと感じました。そういうところですよ。すいません。

原嶋議長

よろしいですか。大久保委員も行かれたので、感想をよろしくお願いたします。

大久保委員

そうですね。まず、建物やら何やら、そういう立派さにも驚いてはいるんですけども、それがうまく、人が集まって活用されているところがうらやましいかなと思いました。

「さやまなびいネット」とか、そういうものなんですけれども、これに関しては、とても勉強になったりとか、見習えるといいなというふうに思いました。私も小金井市のホームページを全部深くちゃんと見ているというわけではないので何とも言えないんですけども、今日の資料の中にもありますけれども、そういう形でうまく活用できたらいいのかなと思います。

あと、中のコンテンツに関しては、私、今日持ってくるのを忘れたんですけども、子育て支援課で出している、子育て用の冊子が今あちこちで配られているかと思えますけれども、ああいうコンテンツとかをうまく一緒に使いながら、そういうものが反映できると、お互いにいいのかなと思いました。

NPO法人については、ああいうものができるといいのかなと思ったんですけども、ちょっとびっくりしたのは、NPO法人というものの仕組みをちゃんとわかっていないので何とも言えないんですけども、そこが

独立して委託されて運営しているんですけども、その中で独自にやることなのでと思ったんですけども、あの方たちが報酬を受け取るのではなく、むしろ会費を払って運営しているというようなことをちらっと聞きまして、ちょっとびっくりして、何て言うんでしょう、運営するとか、そういう機会を与えられる、社会学習、社会教育と言うんでしょうか、学習の機会を与えられる喜びというのもあるので、それはそれで、自分の能力を発揮する場とか、そういう意味ではとてもいいと思いましたが、全てが全てうまくいくかなというようなことも感じました。

以上です。

原嶋議長 石田委員、お願いします。

石田委員 ホームページということで、帰りながら、ちょっと係の方に、これはどういうあれで運営しているんですかといった中に、資金はどのくらい出ていますかって、その運営母体ですね、そうしたら、市と観光協会とNPO、何か、その3団体でどのくらいの金額でって言ったら、うーんと口をつぐんでおっしゃらなかったんですが、それなりの金額は出ていますということをおっしゃって、金額ははっきりおっしゃらなかった。ということで、私の推測ですが、やっぱりホームページをよりよく、また、見やすくやっていくためには、市の予算、それから、そのほか、まちの中でそういう予算に協力できる団体とか、それから商工会とか、奉仕でお金を出してくれるものもキャッチする必要があるのかなと思っていました。私は、それを口にしたことはないですけども、ただ、なかなか市のホームページまでっていう姿勢ではないので、やっぱりそういうものが必要なと思いました。

あとはもう、どうぞ。

原嶋議長 では、小山田委員、お願いします。

小山田委員 皆さんがおっしゃった、ほんとうにそのとおりのことなんですけれども、やっぱり市民のNPOが運営しているということで、私もどのように運営されているのかということに関心がありまして、その後、いろいろ伺ってきたんですけども、ほんとうに皆さんがおっしゃるように、ボランティアの力でやっていらっしゃるところは、いい意味ではすごくいいんですけども、やはり、先ほどの委員もおっしゃったみたいに、そのあたりの予算とか、そういった兼ね合いと、あと、ほんとうに無償のボランティアという部分と、有償ボランティアという部分とということで、いろいろな責任問題とか、そういうこともかかわってくるんだろうなと思って、いろいろお話を伺っておりました。

小金井市ではどのようにできるのかなというところが、また次は課題かとは思いますが、やはりあのように場所があると、そこに情報も人も集約できるということで、やはり小金井は、いろいろなところでいろいろな方が活動されたり、いろいろな情報があるんですけども、集約で

きる場所ですとか、そういったところがないと言えないので、箱物は置いておいたとしても、ここに行けばという、集約できるような情報の一元化とか、そういったようなことができるものがあると、やはり、そこから何かまた始まるのかなと思いました。

あと、人材育成も結構、市民大学というところで養成講座もやっているということで、そこにかかわる人たちは、やはり事前に講座を受けてやっていらっしゃるということを知ったので、そういった講座とかをやりながら、人も人材も集めながらというようなことが、まずは小金井の場合ですと、そういったことも、そこからまたできるのかなとか、何かできることから、何か近づけることがあるとよいのかなとは思っておりました。

以上です。

原嶋議長

私も行きましたけれども、箱物については、中央公民館、駅に近くてほんとうに人が集まりやすいということ、いいなというだけで、それ以上のインパクトは、小金井と云々と比較してもしようがないので、それはそれで。ただ、やっぱり人が集まりやすい場所、これは武蔵野もそうなんですけれども、いいなと思いました。狭山市ですので、多分、土地代、土地単価も随分安いのか、そんなことを言ったら失礼だけど、やっぱり、あんなに立派なものを建てられる。小金井市はちょっと無理かなと思いました。

人材についてですけれども、やはりこれは、NPOがほんとうに市と連携してよくやっている感じはします。ただ、やっぱりお金が出ているなということがわかりました。課長さんは3という数字を、サインを送ったんだけど、それなりに予算を出しているんだよということだと思います。ボランティアの方とかホームページ作成の方、やっぱりそれなりに、多少はお金が必要だということになると思います。

もう一つは、市の仕事、市の職員の方がパソコンを打っていらっしゃるというのを聞きました。でも、それはやっぱり、市のそれぞれの職員の数だとか、実態だとか、だからやれなんて全然思いませんし、でも、そこそこ、市の職員と一緒にやっているのかなと思いました。小金井市は3人、4人ぐらいの職員の中で、あそこまでできるというのは難しいのかなと思います。

あと、もう一つ言うならば、人材育成のところで、どう育てたのかなと聞いていたら、社会教育委員の人がいらっしゃったので、僕もちらっと聞いてみたら、まず、市のほうから唾をつける。例えば、小山田さんみたいな、非常にボランティアでいろいろなことをやってくださるという方を、小山田さん、救ってよということで、自然に湧くということは誰かがどこかでやっていかないと、スタッフが生まれてこないのかなというような感じはいたしました。

せっかく行ったので、まだまだ、小金井市の体力そのものはわからないんですけども、やっぱり学ぶというか、少しはまねて、よりよい方向を探っていくといいのかなと。やれる範囲の中で、少しずつ、少しずつやっていくといいのかなという感想を持ちました。

あいにく行かなかった人で、何かご質問があればここでお願いします。

では、ご感想ありがとうございました。それを受けてというわけではないですが、小堀さんのほうはよろしいですか。この資料、ちょっとごらんになっていただいて。

小堀生涯学習係長 資料1の2枚つづりのものがあるんですけども、狭山市で立派なホームページを見たところではあるんですけども、今、資料1についている表面が、小金井市の現在のホームページから抜粋したもので、一番上が一番最初にクリックしたとき、ホームページを押したときに出る画面です。その次に、くらし、子育て、健康・福祉、市政、環境・文化という5つの項目が出ています。そちらの子育て・教育というところを押していただくと、真ん中、中段あたりの生涯学習というコーナーに行きまして、そこから大分奥底に行ったところに、今現在ですと社会教育関係団体一覧というものが記載されております。こちら、別紙ありというのは、次のページの表面で、社会教育関係団体名簿、平成27年度から29年度、こちらは何枚かあるうちの1枚なんですけれども、先ほどの表面の一番下のところをクリックしていただくと、2枚目のこちらが、登録の数の分だけ表示されるようになっております。

資料1の裏面を見ていただきますと、少しでも見やすい画面に、そして早く情報にたどり着ける方法はないかと、今できる範囲のもので、情報システム課の人とも相談してみたんですけども、まず、一番上のところは同じ、ホームページの最初の画面なんですけれども、ここで子育て・教育のところを押していただいた生涯学習のところに、新しく、名称は今、仮に入れていますが、生涯学習情報コーナーとか、そういうところを一つ別につくりまして、そこを押していただくと、今回の例でいうと、社会教育関係団体というものを、それ以外にも、つけ足しでつくってはいけるんですけども、とりあえず、今回の例は社会教育関係団体というものをつくります。その下に、その中の分野別のものを並べていって、その1つを押すと、先ほどと同じものなんですけれども名簿が出まして、名簿の後ろに、何回か前に話をさせていただいた、活動内容PR用紙というA4判のものをつけているんですけども、墨田区さんのものを参考に、こういったものがあつたらいいんじゃないかということでお話し合いをさせていただいたかと思うんですけども、例えばそういったものを出していただいている団体には、名簿の脇にチェックするところを設けて、そちらをチェックすると、そのPR用紙が見えるようになるという、そちらの流れで見ることができるということは確認できました。今は社会教育関係団体の流れでつくっているんですけども、そこにそれ以外のものもつけ足していくということはあるかと思うんですけども、まずは生涯学習課の中で、持っている情報を出していくという順番で、ほんとうは大きく、何かできるものがあればということもあるんですけども、まずは、いろいろお話し合いをしていただいた内容等を受けて、小金井市のホームページで少しでも見やすいものにできたらと こちらをお示しさせていただきます。

以上です。

原嶋議長 ありがとうございます。

原田委員 質問です。

原嶋議長 どうぞ。

原田委員 今のお話の、2ページの生涯学習情報コーナーというのは、これから作業するということですか。今、案としてあるということですね。

小堀生涯学習係長 そうですね。ここに新しく項目をつくってということは可能なんですかということを確認した中でです。

原田委員 可能であるということ。

小堀生涯学習係長 そうですね。可能だと。

原田委員 これだけでも随分使いやすくなりそうですよね。

原嶋議長 前回の会議を受けて、少しトライをしてくださったみたいに見えるますよね。

そのほかにご質問は。

大久保委員 では、よろしいでしょうか。

原嶋議長 どうぞ。

大久保委員 先ほど、小山田委員からの話にもありましたように、情報集約という意味で、やはりこうやってインターネットを活用できるものならば、それがよろしいかと思うんですけれども、大まかなところでこの流れはよろしいかと思うんですけれども、やはりこの先、ほかの、今、生涯学習課で持っている社会教育団体という観点で出しているんですけれども、多分、公民館で活動している社会教育団体って、もっとたくさん多岐に及んで、サークルだったり何だったりって、この間、狭山市のコンテンツを見せていただいたらありましたので、そういうことを考えると、やはりそういう可能性とかを含めて、ある程度そのデータとか、そういうことを設計していかなきゃいけないと思うんですけれども、そういうところというのは、この方向性が決まったら、またどなたか、そういうシステム的な方をお願いして考えていくようなものなんですか。

小堀生涯学習係長 システムの問題もあるかとは思いますが、まずは情報を、社会教育関係登録団体の場合はこれをインターネットに情報として載せていいですかということで承認を得たりしているんですけれども、それと同じ

ことを、例えば公民館の団体をそういったものを、今は写真だけだったりするものを表示するとなった場合には、そういったものをインターネットに載せるということの同意をとったりとかというところがあるとは思っているので、システムのものだけではなくて、了承を得られているかどうかとか、そういったところを含めて考えていくということになります。

大久保委員

おそらくそういう手続的なところは、生涯学習課の、お役所の方にきちんとしていただかなきゃいけない部分だと思うんですけども、やはり使い勝手ということを考えると、この間の三者懇談会でも、結局いろいろ持っている情報が埋没して、たくさんある活動までなかなか行き着けないというような話があったので、そうすると、例えば、その活動一つ一つに、それが探しやすいようにどういう属性を持たせたりとか、そういうことがあると思うんですけども、例えば、この公民館で活動しているとか、子供関係で活動しているとか、どういう分野で活動しているとか、そういう話し合いというか、ピックアップみたいなものというのは、この社会教育委員会の場でやっていくようなものなんですか。また別のところでちゃんと、そういう組織をつくってやっていくようなものなんですか。

ごめんなさい、何か漠然と。

西田生涯学習部長 この辺は実は非常に、生涯学習という定義が一体何だというのがまだはっきりしていない中で動いていると、多分収拾つかなくなってしまうと思います。小金井市にとっての社会教育、あるいは生涯学習というのは一体どういうことを指すのか。

これは前回もお話ししているんですけども、教育基本法とか社会教育法というのがありまして、社会教育というのは学校教育を除く教育全般を指すという定義がされています。ただし、生涯学習ということについては、法律上何か決まった定義があるのかというと、ちょっと見当たらないんです。通説で言われているのが、生涯学習というのは、学校教育も包含した全体の教育だという考え方があります。

これにのっとった一番わかりやすい例が羽村市なんです。うちの場合は学校教育部と生涯学習部というのが教育委員会に属しているんですが、実は羽村市には生涯学習部しかないんです。生涯学習部の中に学校教育が包含されているんです。こういうつくりはあんまりないんですけども、ただ、今の考え方から言うと、そういう考え方もありなのかなということがあります。ですから、今、大久保委員がおっしゃいましたような情報が、確かにたくさんあるんですよ。

正直言いますと、生涯学習って何でもありという状況になってしまいます。ですから、それをどういうふうに我々小金井市としてはきちっと位置づけをして、どういうものを生涯学習として取り扱い、重点的にその部分についてこのコーナーで紹介していくのかということをはっきりしておかないと、ほんとうに何でもあり。

ゆりかごから墓場まで、全部、何かの教え合いとか学び合いがある場合には、生涯学習という範疇に含まれてしまう。それが福祉の分野であろう

が、子育ての分野であろうが、遊びの分野であろうが、文化だろうが、スポーツだろうが、何でもそういうふうに結びつけようと思えば結びついてしまうというところがあるんですね。それをどういうふうに皆さんにわかりやすく出していくかということについて、先ほど挨拶のときにも申し上げましたように、小金井市にとっての生涯学習、推進計画をつくっていますので、ある程度の方向性というのは出ているとは思いますが、議論を深めていっていただいて、大久保委員のおっしゃった検索要件というのは非常に示唆的なのですが、どういうフラグを立てるか。これをいろいろとキーワードで検索できるようにしておけば非常に使いやすいものができるかなど。

フラグというのは、例えば検索ワードで「子育て」と入れると、「子育て」をキーワードとして登録している団体がぶわっと出てくる。「高齢者福祉」と入れると、高齢者福祉がぶわっと出てくる。ですから、例えばこういうキーワードで探しますよというのを生涯学習の分野で幾つか決めて、そこで検索がかけられるようになると、例えばこの団体の活動のところにフラグが15個あったとすると、関連するものに全部丸をつけてくださいということで検索しやすくなる、そういうことはあると思います。

それは、例えばフラグはどういうふうに決めていくのかとか、そういうのは、社会教育委員の会議なんかでもご意見をいただきながらということはあると思います。

ちょっと長くなりましたが。

大久保委員 ありがとうございます。

原嶋議長 よろしいですか、大久保委員。

大久保委員 はい。ありがとうございます。

佐野委員 佐野ですけれども、先ほども委員から出ました、紙ベースでとりあえず集約をしてみる、それをもとにいろいろ分類をして、インターネットに載せるような形をとる必要があるんじゃないかなと思います。

要するに、公民館さんや図書館さん、それからまた、社会教育団体、いろんな団体がありますから、そこから、1つ情報を寄せていただいて紙ベースで構成してみる。その中から、要するに、それをもとにしてインターネットに接続できるようなシステムを考えていくということが大事なんじゃないかなと思うんです。

先ほど意見が出ていましたけれども、要するに、小金井の場合、いろんなことをやっていますが、それを集約するという作業が少し足りないんじゃないかなと思うんです。ですから、それを集約してくると、小金井ってこんなことまでやっているのかと市民の方はきっとびっくりされるんじゃないかなど。いろんな研修会に行かれてすごいという意見は多いんですけれども、小金井もそれに遜色のないことを私はやっているのではないかなどという自信はあるんです。ただ、それを市民の人の目に触れる機会が少ない。

また、そういう目に触れるような形にできていないというところに小金井の問題があるので、ですから、そういうものをつくりましょうという強いリーダーシップが今必要なんじゃないかなと思います。

学芸大学さんとか、法政大学さんとか、農工大とか、いろんな大学が小金井市の中にはたくさんあるわけですから、ですから、そういう大学とかいうところの、知能というんですか、知恵というものをほんとうに集約してくれば、私はすごくいいものができるんじゃないか、ただ、それをやろうと思うか思わないか、その1点だけだと私は思っているんですけども。ですから、やると決めて、何年計画で、ここまでそれをつくりましょうというものができないと、今ここで話し合っているような、そういうものというのはなかなかでき上がってこないんじゃないかなと思います。私はそういうふうに思っています。

原嶋議長 ほかにご意見がありましたら、どうぞ。
はい、どうぞ。

石田委員 石田です。
私は今、この2ページ目の、とりあえず小堀さんがやってくくださったこういう形で、その中に入れ込むことはできるよといったこの案というのはとてもいいと思うんです。そして、大きくまとめて全体を動かそうとすると大変ですけども、小さいことから、この中にフラッグを立てる作業とか、この中のこういうものを利用して、とりあえず皆さんにこういうものが活用できるよということを知らしめていくことが次のステップにつながるんじゃないかと思うので、これをここまで図案化してくださったことがとても見やすく、これならいけるのかなという感覚を今日つかめたなという気がするんです。

漠然とホームページと言っているけど、ほんとうに予算もない、何もないですから、それで、そういうことをやっていた中で、ただいまおっしゃったような、大学と小金井市と協定みたいなものを結んでいますよね。そういうものが利用できる段階が来たら利用できればと思いました。

原嶋議長 ほかにありますか。

柴田委員 よろしいですか。

原嶋議長 柴田さん、お願いします。

柴田委員 柴田です。すいません、大学の授業の関係でおくれて参りました。
今、こちらの資料を拝見しまして、とても現実的に進められる切り口になるのではないかと思います。最初は公的な社会教育施設のさまざまな講座と、学校関係、大学関係の教育機関での学びの機会、それから、登録されている社会教育関係団体というところから情報を集約して公開していくことから始めてみるのが現実的なのかなのではないかと思います。その

後、いろいろ改善点や、この仕組みが市民の方に広がっていくと、さまざまな自主的な市民活動の方もここに情報を掲載したいというような要望も出てくると思いますので、まずはやってみるということが大事なのではないのでしょうか。

以上です。

原嶋議長 ほかにありますか。

大久保委員 すいません、よろしいですか。

原嶋議長 どうぞ。

大久保委員 まずこの方向でやってみるというふうな、それはよろしいかなと思うんですけども、これをやはりどういう形で作るのかというのはシステム課の方と話すのかもしれないんですが、ホームページを作成するときに、例えば、ただ文章をつくって、それをPDF化してアップするとかいうのと、やはり先のことを見据えて、ある程度データの形というのをもってつくっていくというのは、ちょっと専門的かもしれないけれども、その先のことを考えたときに、かなり違うのかなと思うので、大まかな流れとしては、こういう団体があることが目に触れるということとはとてもいいことだと思うんですが、どうせやるならば、そこら辺をもうちょっと考えた上でやっていただけるともっとよろしいんじゃないかなと思います。

原嶋議長 提言的なことをいただきました。

小金井市の枠組みが非常に狭められている。やっぱりお金がない、場所がない、そして、小堀さんに伺ってみたら、いわゆる、システム化、あるいはセキュリティーの関係は全て市の職員が頑張ってやってくさっているわけです。いわゆる外部からのプロバイダーみたいなのを呼んでいない、表現は悪いけど、細々としていても頑張っている、その枠組みの中で一步踏み出てきていることはいいのかなと思います。あんまり広げちゃうよりも、まずできるところから肩肘張らないでやってほしいのかなという感じがいたします。

この中に当然、図書館とか公民館のフレーム、ホームページがあるわけですから、それにクリック、入れるような形で上手に入れていけば、少しずつ、よりよい広がり展開ができるのかなと思います。

大久保委員 はい、わかりました。

佐野委員 佐野ですけれども、要するに、ビジョンを明確にして、それに対して現実的にできるものからやっていくという方法をとらないと、今できることをやりましょうという場当たりのことでは広がりというか、発展というのは難しいんじゃないかなと思うんです。ですから、せめて、委員のコンセンサスとして、やっぱりそういうビジョンというものを持って現実に、

今はこれができるというふうな形で進めていかないと、対処的な療法で物事を進めていくというのは、長い目でみると私は決してプラスにはならないんじゃないかなという気がします。

私はそういうふうに思います。

原嶋議長

どうぞ。せっかくですので、ご意見伺いたいと思います。
原田委員、どうですか。

原田委員

この議論のスタートが、ビジョンといえばビジョンと名づけられたので、要するに、みんなが共通して感じられているのは、佐野委員がおっしゃったように、いろんないいことをいっぱいやっているのに集約されていないから市民に見えない。まさにそれを見えるようにするシステムをつくらうじゃないかというのがビジョンだと思うんですね、ビジョンと名づけるとすれば。つまり、やりたいと思っている人がいっぱいいる、やっていることもいっぱいあるんだけど、それがうまくつながっていないというのが歯がゆい感じがするということなので、そういう意味で、今日これが提示されて、これができるはず一歩前進だなと僕も思ったんですけども、できるところからやって広げていくという方法もあるんじゃないかなと感じました。

佐野委員

佐野ですけれども、なぜ、私がこういうことを言うかということ、要するに、市の基本計画に合致するような形の社会教育の、生涯学習推進計画というものをあわせるために2年間ずらしたんですよね。私、そのとき社会教育委員でしたから、要するに、どんな事業がどこでどれだけやられているかという情報を集めたんです。そうすると、要するに、縦割りですから、同じような事業をあちこちでやっているわけです。これを集約すれば、もう少し予算もつくし、もう少し大きな形の授業としてできるんじゃないかなと私は思ったので、その作業に取りかかったんです。はっきり言って、それはすごい量ですよ。一つ一つ切り取って、それを張り合わせていって、同じような事業がこれだけ実施されているというのを、資料づくりを始めたんですけれども、ただ、その次の期に社会教育委員でなくなってしまったので、はっきり言って、やったことが無駄になっちゃったのかななんていうふうにちょっと思ったんですが、そういう分析をすることがやはり、私はすごく大事なんじゃないかなと思いました。ですから、そういう分析をした結果を生涯学習推進計画の中に生かしていけば、お金がないと言いますが、確かにお金はないかもしれないけれども、それを言ったら始まらないわけですよ。

小山田委員

佐野委員に質問なんですけど、今もお話を伺っていて、佐野委員としては、ビジョンというのは、とりあえず、ほんとうに理想として、もし全部できれば、どのぐらいのことができるのかとかいうか、今回、今ここにあるのは社会教育関係団体一覧だけなんですけれども、それだけではなくて、いろんなところでやっている事業とか、そういうのを集約したり、ほんとうに

全部できるとしたらどのぐらいのことかというのを考えた中で、まずはここからというような感じで、まずは団体を集めようとかというようなビジョンなんですか。最終的な大きい構想を考えた中で、ただここからスタートしようというようなことでしょうか。という質問です。

佐野委員　　ちょっと質問の内容が、私、うまく理解できないんですけども、要するに、基本計画に合わせる形で生涯学習推進計画というのをやったと思うんです。そのときに、どういうふうに学習の推進計画というものをつくり上げていったらいいのかと考えたときに、いろんな部署で同じような内容の事業をやっているからそれを合わせて、はっきり言って、これは縦割りですからなかなか難しいと思います。行政ですから抵抗あると思うんですが、そういうものをまとめていけば、もう少しすっきりした形で予算も膨らむと私は考えたので、そういう資料づくりをしてみたんですけども、それでよろしいでしょうか。

大久保委員　　すいません、そういう前例があるようですので、多分そのときの資料とかがあるといいのかなと思うんですけども、例えば、今、墨田区の例として、活動内容、PR用紙というのをここに載せていただいたんですが、おそらくこれだけを見るとちょっと情報が足りなくて、多分ホームページの先にこれだけの情報がぶら下がっても、情報の全体的な活用という観点からするとちょっと足りないかなという感じがするんですね。

だから、例えば、今、どんなところでどんな授業をやっていたかと佐野さんおっしゃっていたんですけども、そこだけでもわかるように、例えばどこで、場所ですね、公民館だったり、場所だったり、属性だったりとか、どういう事業かという分類、ここでは活動分野となっているんですが、このPR用紙にもし載せるとしたら、どんな情報が必要なのかということを含めてここに載つけていくといいんじゃないかなと思いました。

長坂委員　　よろしいですか。

原嶋議長　　お願いします。

長坂委員　　長坂です。
私はこの委員会に出させていただいて、今日初めて、私が期待していることが皆さんから発言されたので少しほっとしているところです。今日議論していることが、みんなどこにあるのかなと。いわゆるお互いに生涯学習を勝手に理解しているんですね。よく言えば、めいめい都合よくというか、わかる範囲で。そういう方たちが集まって何かやろうとしてもうまくいくわけがありません。やっていることが非常に中途半端で、みんなが納得してやっているとは思えないんです。ですから、ここで1つ、そんな理想的なことはできませんけれども、少なくとも今期の委員で1つのコンセプトをきちんと決めて、できるものとできないものがある。それから、そういう理想論と行政との絡みがあるわけですから、当然限界があるわけで

す。だけど、社会教育委員の会議として1つの理想像を書いて、現実にはできるものはどれかということを書いてあげることが既に生涯教育だと思うんです。個々に、これが生涯教育です、生涯学習ですとやるよりも、全体図、構想といいたいでしょうか、それを示すことが一番大きな仕事になるかもわからない、ということであれば、この委員会はものすごく存在価値が出てくると思います。

具体的に何をやるかということになると、私は既に素案を幾つか持っていますけれども、何かそういうふうな、しかも小金井らしさというか、欲しければつけられるような、さすがというようなことが出てくるように仕向けるわけですが、とにかくこういう話し合いをきちっとやるべきだと思います。これで終わってしまっただめだと思います。テープをとって、校正して終わりじゃ何もならないと思います。これをもっと詰めていきたいと思っています。そういうことを徹底して、どういうふうに詰めるかということなり、また1つの方法を考えなきゃいけないと思いますけれども、今も話し合っていることはみんないいことですが、まとまらないですよ。話をして終わりになるように私は感じていました。しかし、今日の話し合いの内容ならば、これはいけるなど、非常に効果があるなど、力になるなど今日初めて私は感じました。

以上、感想が多いと思いますが、私の考え方です。

原嶋議長

ありがとうございます。
ほかにどうですか。

石田委員

石田です。

この第3次の前の第2次に生涯学習とか小金井市でやっているいろいろな行事がずらっと把握されていたんです。それで、重なっているところもあって、それは縦割りの行政の中でそこを変えて、この行事のためにくっつけなさいというのは私たちの仕事ではないと思うんです。それはやっているけれども、その課がやっていることをちょっと協力していただけないかというような形ならば1つの形にまとまるという事柄も出てくるのではないかと思うんですが、ただ、やはり私は大きいものからやるよりも、ここにあるような、今できそうな、可能性のあること、そこから一步踏み出すことがやっぱり必要ではないかと思うんです。そして、情報がこれだけだったら、そこにリンクを張ればいいわけですが、それぞれの団体に。もっと知りたければ、そこからそれぞれの団体に飛べばいいんです。ですから、必要なことは皆さん平等に、例えばこれだけの平等な情報の中かもしれないけれども、もっと知りたければその団体なり、活動部隊なりに飛んでいけると思うので、とにかく視察をして、いろんなこともやった中で、まずは一步を、大きいことを求め過ぎないほうがいいのではないかと思います。

柴田委員

よろしいですか。

原嶋議長 どうぞ。

柴田委員 柴田です。

私も石田委員の意見と同じで、ビジョンはあっても、あまり最初から大きいことを求め過ぎず、生涯学習の基本である、いつでも、誰でも、どこでも学びにアクセスできる環境を市としてしっかりと保障をするという意味で、生涯学習情報コーナーをつくるということを前提に進めていったらいいのではないかと思います。

例えば、介護の問題に関心のある人がここにクリックすれば、貫井北とか東分館とか、こういうところでこういう講座があるんだと思うと、1つの館だけじゃなくて、いろんな館でやっている講座に参加して、そこで学びを深めて、例えば地域で、同じ関心を持った仲間がそこでできるお手伝いになるかもしれませんし、こういうふうに誰もが学びにアクセスできる環境をまずは提供するということが、税金を投じて企画運営されている講座は全部公開するというような、限られた領域のものですけれども、それはしっかり保障して、情報公開をするというもので、市民活動レベルですばらしい活動が小金井でさまざま展開されていますが、それはまたその先というふうに考えたほうが、まずは現実的なんじゃないのかなと思います。

原嶋議長 原嶋ですけれども、重点プロジェクトというのが23ページにありまして、生涯学習支援機能の充実ということで話を進めているところと、市民のために、あるいは行政と一緒にどうやってできるか、今後の方向性を受けて、ここに書いてあるように、今お話しされたように、いつでも、どこにも、誰にでも、インターネットあるいはサーバーを通して皆さんに情報が提供できるような、こういった方向性をどうしていくかというのが、このところでずっと話し合いの課題になっているわけなんです。それをまたどんどん広げちゃうと、もう我々もあと1回ぐらいしか話し合いがないから、全てここでエンドではないので、次の期の方にバトンタッチしてもよろしいんですけれども、やれるところからということが何人かのお話が出てきているわけです。方向性というのを、我々もいろいろ見学に行ったり、話し合ったり、中で進めてきているわけです。だから、それ以上の広がりというのは、この期の中で、何回も何回もまた会議があるわけではないですから、ある程度煮詰めてもいいのかなと思います。

佐野委員 佐野です。

小委員会では、こういうことについての話し合いというのはされていらっしゃるんですか。この場に、今日の会議にいろいろ議題が出ていますけれども、それについて小委員会で検討されていると思うんですが、その場では話が出ているんでしょうか。ある程度もんだやつを今日の会議に持ってきているんじゃないかと思うんですけれども。

原嶋議長 小委員会は、具体的にはこのことで設置されていませんので、久しぶり

に狭山から、そのままあって、ここでの会合になりますので、ワンクッションあったわけではないです。

小山田委員 今日どこまで決めればよいのかみたいなどころはあるんですけども、あと何回かしかないということであれば、その何回かの中でどこまで今期で到達できればいいのかというものが、目標を決めて、その中であと何回かで具体的に何をやっていくということ、今期は終わるのかなとは思いますが、このあたりはどう……。今の皆さんのお話ですと、やっぱりサイトの中で、まずは生涯学習情報コーナーをつくっていただいて、ここに社会教育関係団体を、情報を集めるということと、公民館とか、そういった公的な機関でやっている講座とかが、公民館とリンクできればいいのかもしれないですけども、最低そこまではやってみようとか、その辺を具体的な目標を決めて、あと何回かやっていくということはいかがでしょうか。

原嶋議長 何回かあって、実際はあと1回ですよ。うまく東ねるのは難しいかもしれませんね。皆様のご意見を伺いながら、また最後の小委員会というのは設置はできないわけです。そしてまた、最後の会議、定例の委員会に持っていけない。予算的にはないわけですよ。あとは、先ほど部長がおっしゃった、何をやるに当たっても、生涯学習とはどこまでのという定義みたいなのは、最初に確認しておいたほうがよいのかなとは思いますが。

佐野委員 佐野ですけども、そこまで戻ると大変なことになってしまうと思いますよ。生涯学習とは何かということに戻ると、ほんとうに収拾がつかなくなる。今、要するにあと1回しかありませんから、なかなか難しいんじゃないかなと私は思いますけれども。

大久保委員 すいません。

原嶋議長 大久保さん。

大久保委員 大久保です。生涯学習とは何ぞやというところまで戻ると大変というのがありますし、やはり情報を早く皆さんに活用してほしいということを考えると、そこまで立ち戻ってというのは大変ですし、あと、この欲しいのというのは、生涯学習という言葉とか社会教育という言葉はすごく難しく、実際に市民が自立して学習しようとか何とか考えたときに、そういう言葉ってあまり気にしないと思うんです。やはり、だから、そういうときにはこういう活動をしているというところが早く目に見せたいわけなので、そういう考えでやっておかないと、できる範囲でやるしかないのはわかっては

いるんですけれども、できる範囲で、段階的に階層的な感じで見せていくという発想でいると、なかなか活用という方向には向かないんじゃないかなと思うんです。

だから、先ほどのように、公民館にリンクを張れば公民館の活動が見られると。そうなんですけれども、ホームページを見られるほどの人だったら、そもそも公民館の情報を見に行ったりとか、図書館の情報を見に行くことはできると思います。ただ、それが、そうじゃなくて活動という何か串刺ししたような情報で見られた、そこに、やはり情報の価値があると思うので、そのシステムとかができるのは簡単ではないんですけれども、先ほど部長さんもおっしゃったように、フラグというか、今どきだとハッシュタグとか、いろいろ検索のあれはあると思うんですけれども、そういう、市民がどういう情報を欲しいのかという観点でやって、とりあえず上げてみるというのは別に非現実的なものではないし、例えば、このPR用紙の中にちょっと盛り込むような情報でもあるんで、少しは前向きになるんじゃないかなと思うんですけれども。

原嶋議長 P R用紙の工夫ということですが、例えば、この字の中で何を盛り込んだらいいと思いますか。

大久保委員 先ほど話したんですけれども、例えば場所です。公民館。あとは、活動分野って漠然としているんですけれども、ここをもうちょっと、どういうふうに、どういう検索キーワードが欲しいのかという。

小山田委員 生涯学習の定義と同様かもしれないんですが、串刺していくときの1つの目安というか、どの観点で串刺すのかというのは、でないと、串刺されないものは何で串刺されないのかとなるので、その串刺す、串刺さないというか、生涯学習として、そこで拾うための観点というか基準みたいなものを、何かある程度は共通認識みたいなものがあるほうがいいのかとは思いうことが定義という意味なんですけれども。

原嶋議長 原嶋ですけれども、その話になると、本来こういう話が深まっていく大きな前提、いわゆるスタート時点の中で共通理解を得てということの、もう1回それを戻っちゃうような感じですので、生涯学習の定義は、僕、専門家じゃないんですけれども、それを皆さんで議論することはどうなのかな。専門学会でも何でもなし、ここは、いわゆる市民の方が市民のために集まっていたいでいるわけですので、学会でも研究会でもないという部分はありますよね。市民の使い勝手のようなものを、市民目線で我々は考えていかなきゃいけないわけですので。

大久保委員 すいません、それは検索キーワードをここで拾い出すことはできないということをおっしゃっているんですか。

原嶋議長 いわゆる生涯学習ではない概論的なものをここで話し合ってもしょうが

ないから、この時期にこういった専門的なことを議論するのは、もっとスタートの中でやる分には構わないんですけども。

大久保委員 そうですね。

原嶋議長 ほかに意見がなければ、小堀さんと小委員会の皆さんと相談して、最後、ランディングというほどじゃないけれども、別にきちっと着地できるような内容でもないかもしれない。次に続く、随分長きにわたり続くような内容でもあるかもしれません。なので、小委員会を開いて、最終的にはこのような終わり方、そして、次につながるようなやり方、これを少し考えていく時間を欲しいなと思っておりますけれども、どうでしょうか、小委員会の方。

原田委員 それでよろしいんじゃないでしょうか。

原嶋議長 よろしいですか。
夏休み中になると、8月、今度最後、8月25日ですね。
その間、皆さんと調整しながら進めさせていただければと思っております。
よろしいですか、この件は。

(「はい」の声あり)

原嶋議長 最後の最後まで、一番大事なこともかもしれませんね、これが、我々の期は。
では、終わりにさせていただきます。
レジュメに従っていきます。(3)ですね。進捗状況調査。どうぞ。

小堀生涯学習係長 ちょっとタイトルをちゃんと書いていなかったんですけども、複数書かれている、左上に第3次生涯学習推進計画重点プロジェクト評価方法となっているものをあけていただきたいんですけども、こちら、第3次生涯学習推進計画の評価をするに当たって、どのような形で評価させていただくかということをご意見をいただきまして、まず最初のページの左半分に、どのような形で担当部署に評価を行ってもらったかというのを書かせていただいております。各重点プロジェクトの中に成果目標等が入っているものがあるんですけども、こちらに合わせて記入してもらっていますが、1つの評価について複数の課にまたがっているものもありますので、こちらについては、それぞれの課ごとに提出してもらっております。

内容について、3の各項目の記載方法という形で、こういったものを書いていますということを書いてあるんですけども、途中にあります評価のA・B・C・Dなんですけれども、こちらのA・B・C・Dにつきまし

ては、Aが、まず、計画に沿って事業を進め、平成32年度の目標を達成している場合はA、Bにつきましては、計画に沿って事業を進め、平成32年度の目標は達成していないが、平成26年度より数値が上昇しているものについてはB、Cにつきましては、計画に沿って事業を進めているが、平成26年度の数値とほぼ同数、変わっていないのがCになります。Dにつきましては、計画に沿って事業を進めているが、平成26年度の数値よりも大幅に減少している、また、大きな課題等があるというものをDという形で評価しております。

今回、こちらの会議に間に合うように提出をお願いしたものではありませんけれども、第2次と大分評価の方法が変わってしまった関係で、担当部署でも記載等にしづらかったところ等がありまして、全体として見ることができなくて、今回の会議にやっと提出自体が間に合ったというところで、評価方法A・B・C・Dの評価についても、この基準でやってはいるんですけれども、全体のバランス等を確認する時間がありませんで、事前にお配りができていないんですけれども、今回、こういった基準で評価をしております、また、今お配りしたものですので、これについてすぐどうという意見が出るかどうかもあるんですけれども、最後、8月の会議のときまでに、もし事前にご意見、ご質問等いただきましたら、こちらを担当部署にも確認をとったり等いたしまして、あと、担当部署でも最後見直し等行いまして、また8月の最後の会議に、全体の評価の内容も、これは用紙を全部ただつづつてあるものですので、全体としての評価をプラスしたものをご提出できればと思っております。

西田生涯学習部長 ちょっと補足でよろしいでしょうか。

原嶋議長 どうぞ。

西田生涯学習部長 生涯学習部長ですが、これ、とりあえず提出をさせていただきました。中身につきましては、調整がまだ必要かなと私も思っておりますので、評価の欄というのは、特にAとかB・C・Dと書いてありますが、この部分については、また確定版を皆様にお送りするなりお示しさせていただきますので、こういう形で、今回プラン・ドゥー・チェック・アクションというPDCAサイクルで回すという形での評価をさせていただいたという全体の部分を見ていただいて、ご質問等がありましたらお願いしたいと思っております。中身、AとかBとか書いてあるところは、その部分について、あまりあれしないで、またちょっと訂正があるかなと思っておりますので、よろしく願いいたします。

原嶋議長 ほかによろしいですか。
ご質問ありますか。どうぞ。

柴田委員 柴田です。
目標設定のところで、例えばナンバー2の重点プロジェクト、生涯学習

支援機能の充実というところで見ると、生涯学習支援事業数が達成できればいいということなんでしょうか。例えば、そこに参加した方の人数であったり、それから、前年度と比べての伸びしろであったりとか、ほかにも何か指標があるような、単なる事業数だけで評価ができるのかなと思いますが、いかがでしょうか。

小堀生涯学習係長　そうですね、ほかの計画等でも評価の仕方がいろいろあるものがありまして、あと、同じような5年計画のものがありまして、そちらの評価方法がわりと基準がはっきりしているというか、あくまでもさっきいただいた数というところをメインにして評価しているものを使わせていただいているんですけども、今回、おっしゃっていただいたように初めての評価でありまして、数が減っているということだけで内容抜きにして評価できるかどうかということ、例えば、数でいえばC評価なんだけれども、内容としてはB評価だからB評価にしましたという担当もありましたので、何を重視するのか、あくまでも数字が重要なのか、内容が重要なのかということが、実際この評価をしている中で、私たちも自分たちが評価する側で評価しているんですけども、最初は同じ基準にするために、数を、内容であったりというところを評価すると、ちょっと主観が入ってしまうかなというところがあって、このA・B・C・Dはほぼ数を基準にしているんですけども、ただ、実際の評価をしてみた感覚とすれば、内容の部分を全く考慮しないで評価するのはちょっと難しかったかなと思って、見直しというか、ここで見直しなのか来年度かはあれなんですけれども、したほうがいいかなとは思っています。

西田生涯学習部長　補足です。ごめんなさい、こちらに事業数だとかと書いてある重点プロジェクトに沿った数値なんですけれども、実はこれ、第3次小金井市生涯学習推進計画22ページから出ている主な事業、成果目標というところに全部則してつくっているんです。ですので、例えばナンバー2の生涯学習支援機能の充実というのは、計画全体で100事業、目標のところ、計画全体で108事業と書いてあるのは、23ページに書いてある数字をそのまま持ってきているということでございまして、基本的には、その部分のところの評価を今回していると。あくまでも、第3次生涯学習推進計画の重点プロジェクトに書いてあるものができているかどうかという評価になりますので、どうしても、確かに今、柴田先生がおっしゃった視点はあるんですけども、評価としてはここに書いてあるものを評価しているということになりますので、今年度、来年度で見直しというのはなかなか難しいのかなというところはあると思います。

柴田委員　わかりました。
よろしいでしょうか。

原嶋議長　どうぞ。

柴田委員 これは、その結果が次年度の予算に反映されることはあるんですか。

西田生涯学習部長 予算に反映されるかどうかということにつきましては、そこまでの、実はこの計画、位置づけがございません。ただし、私どもといたしまして、財政当局に、例えば予算、こういうことなんで、こういうことだよというところの、いわゆる証拠の書類としてこの計画をつくったり、実績評価を見せたりすることで、考慮の一端としてくださいということはあると思います。

柴田委員 例えば、市民の大多数のニーズの低い講座があったとして、でも、やはり民間企業では採算がとれないからやらないけれども、一定数の市民ニーズがある講座は、多分、この数字だけ見ていくと評価は低くなると思うんですけども、これが予算に反映されないのであれば、そういったものも保障して、しっかりと継続されると理解してもいいんでしょうか。

西田生涯学習部長 数字だけで見ているわけではございませんので、ですから、この評価が全て予算査定のもとになっているかということ、そうではないということでございます。

柴田委員 わかりました。ありがとうございます。

原嶋議長 よろしいですか。

柴田委員 はい。

原嶋議長 ほかにありますか。

とりあえず提出された。特に評価のA・B・C・Dについてはもう少し検討していきたい。また、7ページか8ページ、裏表の資料でありますので、我々もさっと見るわけにはいかないと思いますので、これ、どうなっているのというご質問等がありましたら、小堀さんでよろしいですか。

小堀生涯学習係長 そうですね、いつもいただいているメールでも構いません。

原嶋議長 メールなりお電話なりにて伺ってください。よろしく願いいたします。では、この点、3番目はよろしいですね。

次に行きます。(4) 青少年のための科学の祭典。これ、私のほうで進めさせてください。

たしか9月24日ですかね。今回は、石田委員は事務局をおやめになられたということで、高いところからいろいろとやっつけてくださっているんだと思います。

私どもは、実は9月初旬で任期が一応終わるんですけども、この前お話ししましたように、やっぱり、いきなり新しい委員の方に振るというのはちょっとまずい。これは前回も期がかわるところで、前の人たち、前の

社会教育委員がやろうよということですので、社会教育委員を経験した方は、この科学の祭典については2回携わっていくのが基本になっていくんだなど、その辺は押さえさせていただきます。

内容なんですけれども、フレキサゴンということで従来やってきたんですけれども。

紙細工。大久保さん以外は、大体皆さんどんなものかご存じだと思います。あれをイメージしていただければいいんですけれども、子供たち、小学校低学年から、中学生は来ないですね、あまり。多くの子供たちが楽しんでやっているということもありますし、また、図書館や公民館の方々も、いろいろ前は工夫しながら集客をされていたと覚えております。

石田委員 大久保さんもP連の会長として、夏休みの。

大久保委員 参りましたので、何やっていたかは。

原嶋議長 紙芝居、そうですか。

石田委員 全面的に、夏休みの生徒作品を重点的にやっていますので。

大久保委員 それは見ておりましたし、去年見せていただきましたので。

石田委員 雰囲気はわかっていただけだと思います。

原嶋議長 そうですね、ご承知ということで、それに何かかわるもののご提案があれば、ここで伺っていきたいなと思っています。どなたかありますか。

と申しますのは、多分これ、本部に、実行委員会ですか、そこにこういうものをやるんだよという大まかなものは提出しなくちゃいけないのかなと。そろそろ期限が迫っていますので。

石田委員 申し込みが確かに。

原嶋議長 そうですね。

これ、僕らで進めていいですよ、中で。

では、小山田さん、何かこんなものがあるんですかなんて。

小山田委員 でも、ずっと長年やられて皆さんなれていらっしゃるフレキサゴン。

石田委員 原田さん、去年、これどうやるんですかと言っていて、実際やって、できるものですねとおっしゃっていたから、いかがですか。

原田委員 ちっちゃい子のほうがすぐ覚えるんですね、あれ。

原嶋議長 そうですね。

小山田委員 あれはもう定番のようで。

石田委員 定番。

原嶋議長 定番ですか。

小山田委員 何かあれば。

原嶋議長 では、継続してやっていくということで、申請してよろしいですか。なければ申請させてください。

石田委員 あと、すいません、去年、高校生スタッフを私がとても多く頼んでしまったんです。ただ、去年は秋だったので、生徒の公式試合か何かで、ボランティア数がいつも210名ぐらいなのが150名ぐらいで、ちょっと叱られたんです。1カ所に多く頼み過ぎだと。今年、高校生の数も、去年の経験で、そこで鑑みて数値を。生徒のほうがこのブースに行きたいという希望を出しているんです。なので、当日、ここは8名で多いからほかのブースに行きなさいという指導が一切できないんです。子供たちのボランティア希望をとっているのです。

すいません。去年足りずに8人やっちゃいましたね。

原嶋議長 やる内容については、今決まりました。それと、ボランティアについては不確定要素があるということと、次の8月のこの会のところで皆様のご都合を伺いたいと思います。

23日の土曜日が前日準備ですけれども、これについては、私とどなたか、去年は小堀さんとやったから2人で十分かなと思います。1時間ぐらいのセッティングで可能だなと思っています。要は、24日に午前の部、午後の部ということですので、8月の時点でご都合、1カ月前でお伺いしますので、その際にご協力いただければと思っています。

よろしいですか、この件も。

(「はい」の声あり)

原嶋議長 では、その日についてはご都合を伺わせてください。よろしくお願ひします。

次に行きます。報告ですか。(1) お願いします。

小堀生涯学習係長 (1)の平成29年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第1回理事会の開催については、こちら案内が届いておりますので、原嶋議長と、あと、事務局小佐野のほうで、平成29年7月25日火曜日に立川市役所の会議室で行われますので、そちらに参加する予定です。よろしくお願ひいたします。

原嶋議長

わかりました。

今のはよろしいですね。25日に行ってまいります。その中で大事なことがあれば、皆さんにももちろんおろすということにさせていただきます。

では、この件はよろしいですね、報告。

なければ、(2)、お願いします。

小堀生涯学習係長 一般社団法人社会教育委員連合からのお知らせということで、今、委員の方には2枚つづりのものをお配りしているんですけども、全国の社会教育委員及びその関係者の皆様へご協力をお願いということで、昨年から話がありました1口2,000円の寄附の依頼が届いております。こちらでも、先ほど(1)でご案内した理事会にもこのお話が議題として予定されているということで、用紙等は会議での協議を終えた上で、各市町村に配付させていただきますという案内が届いておりますので、委員の方に周知しておいてくださいということでしたので、今回配らせていただいております。

以上です。

原嶋議長

この趣意書等にご賛同の方、1口2,000円ということですか。よろしくをお願いします。その程度でいいですよ。強制でも何でもありません。よろしくをお願いします。

では、次をお願いします。その他。

委員の方でなければ。となると、今日の次第は全て終わったということでしょうか。

それでは、ここで1回閉じさせてもらって、小委員会の方と、最後ですので、全員大事なまとめと次へのバトンタッチの方向性をしたいと思いますので、小委員会の方はお残りになっていただいて、ご都合のいい日を、あるいはこの場所も含めて調整をさせていただければなと思っております。

それでは4、よろしいですか。

第3回の社会教育委員の会議を終わります。どうもお疲れさまでした。